

〔様式1〕 平成18年度 事務事業評価表					
記入年月日	平成18年4月25日		記入者	連絡先	776-1262
部 名	生涯学習部	課 名	生涯学習課	課長名	高橋
事務事業名	相模原市民ギャラリー運営費（市民芸術活動推進費）				
予算上の事務事業名	相模原市民ギャラリー運営費（市民芸術活動推進費）				
1 総合計画における位置づけ			施策コード	16110	
基本目標	I「学びあいあたたかさのある福祉文化都市」をめざして				
政 策 名	第6章 彩りのある市民文化を創造します				
基本施策名	第1節 多彩な市民文化の振興				事業開始年度
施 策 名	第1施策 豊かな市民文化の創造				平成9年度 ▼
2 実施根拠及び関連法令・条例等					
相模原市立相模原市民ギャラリー条例・相模原市立相模原市民ギャラリー条例施行規則 ・美術専門員設置要綱・相模原市立相模原市民ギャラリー運営協議会設置要綱					
3 個別計画の概要			概要		
計画名					
計画年次		年度～		年度	
4 事業形態の区分 ▼					
5 事業概要					
(1) 事業の目的（何のために行うのか、またはもたらしたい成果）			(2) 対象（誰、何）		
市民に優れた美術作品の鑑賞機会を提供することにより、本市の芸術文化のさらなる振興を図る機会とする。 (1) 相模原に在住する将来性豊かな若い作家や埋もれた作家を紹介することにより、新たな芸術文化の創造とさらなる美術愛好者の増加を図る（＝動物幻想国展） (2) 市内のプロ芸術家集団の創作活動の現状を広く市民に紹介し、美術愛好者の増加を図る（＝相模原芸術家協会展）			一般市民		
(3) 平成17年度事業の内容（活動）・・・いつ、どのような方法で実施した内容（活動）なのか。					
展覧会名：「動物幻想国－5人の作家による立体作品展」 会 期：平成17年7月23日～8月28日（32日間） 入場者数：4,121人 出品作品：44点（立体作品） ワークショップ：アニメ制作 参加者13人 ギャラリートーク：3回開催 参加者68人 展覧会名：「第14回相模原芸術家協会展」 会 期：平成17年9月9日～9月20日（11日間） 入場者数：1,908人 出品作品：39点（会員作品） ワークショップ：絵画講習会3回開催 参加者60人 ギャラリートーク：2回開催 参加者90人 シンポジウム：参加者25人					
6 関連・類似事業や他市の状況					
他にも美術館をもつ市町村を中心に地元作家の展覧会などを行っているが、目的・形態が多様多様であるため一概に比較はできない。また、芸術家集団をもつ市町村においては同様な会員展を開催しているところもあるが、内容的にも遜色はない。むしろ国際交流を盛んに行うなど先進的でさえある。					
7 事業費の推移 [単位：千円]					
年 度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
事 業 費	2,926	2,946	2,487	5,132	5,132
一般財源	2,926	2,946	2,487	5,132	5,132
受益者負担金	0	0	0	0	0
その他の特定財源	0	0	0	0	0
人件費の合計	3,471	3,560	3,570	3,591	3,591
事業コスト合計	6,397	6,506	6,057	8,723	8,723
8 事業効率・・・活動単位当たりの事業効率					
事業名 (または、主たる事業名)	さがみはらあーと（相模原ゆかりの作家展）			対象名称と単位	入場者数（人）
年 度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
事業コスト(主たる事業)	6,397	6,506	6,057	8,723	8,723
対象数	1,552	1,452	4,121	1,500	2,500
単位あたり経費(円)	4,122	4,481	1,470	5,815	3,489
前年度比		1.09	0.33	3.96	0.60

9 活動指標・・・実施した内容(活動)を数値化したもの					
指標名と単位	発掘紹介した作家数 または公開した美術作品数	指標式と 指標の説明	紹介(公開)した作家(美術作品)数÷紹介(公開)しようとした作家(美術作品)数 ※作家を発掘・紹介する展覧会(H15・17・19)と収蔵美術品等を公開する展覧会(H16・18)を隔年で実施		
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度(目標)
実績	21.0	34.0	5.0		
目標	20.0	30.0	5.0	30.0	6.0
目標達成度(%)	105.0	113.3	100.0		
10 成果指標・・・もたらしたい成果の達成度を数値化したもの					
指標名と単位	入場者数	指標式と 指標の説明	総入場者数÷目標入場者数※開催日数は年により異なる為(平成15・16・17・18年の順に26・14・32・14日間)、目標入場者数も年により異なる		
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度(目標)
実績	1552.0	1452.0	4121.0		
目標	2500.0	1500.0	3800.0	1500.0	2500.0
目標達成度(%)	62.1	96.8	108.4		
11 個別評価					
(1) 妥当性の評価 [A:妥当である・B:妥当性に課題がある・C:妥当でない]					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	・法令、条例により実施することが義務付けられている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・法令、条例に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 [A:有効である・B:有効性を高める余地がある・C:有効でない]					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	・上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input type="checkbox"/>	・課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 [A:効率が良い・B:効率性を高める余地がある・C:効率が悪い]					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	・単位あたりの経費は適正である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・これ以上コスト節減の余地がない。			
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力の導入の可能性 [有・無]					
無	<input type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、民間で実施する方が経費の節減に繋がる。			
	<input type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、民間で実施する方が技術・知識面で優れている。			
	<input type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、民間で実施する方がサービス面で優れている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・民間では実施していない、または市が実施する方が優れている。			
12 総合評価(一次評価)					
(1) 自動判定結果					
★★★★★	[★★★★★]: 良好な状態を維持する事業				
	[★★★★]: 概ね良好な状況である事業				
	[★★★]: 見直しを行う必要がある事業				
	[★]: 抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業				
(2) 事業所管課の課長による評価(今後の方向性)			(3) 課長の評価に関する説明		
拡充・充実	<input checked="" type="checkbox"/>	・拡充・充実		当該事業は、相模原市教育委員会が地域性に立脚し、地域の芸術文化振興(美術振興事業)の要として位置付ける基幹事業である。平成18年度より事業費が増えているのは施設利用料の減免見直しに伴うもので、その他の部分では経費削減がなされており、将来的にも充実発展させるべき事業と考える。	
	<input type="checkbox"/>	・現状維持			
	<input type="checkbox"/>	・見直し			
	<input type="checkbox"/>	・廃止			
13 成果の向上及び効率性を高めるための方策			14 課題として認識されたこと		
展覧会の内容の研究・工夫により、さらに高品位で集客性・話題性の高い事業展開が可能である。			本市にはまだまだ知られていない有能な作家が数多く居住しており、それらの発掘・再評価により、比較的負担が軽く、本市独自の芸術文化の振興を図れる可能性が広がることが認識された。		
15 二次評価					
(1) 行政評価会議による評価(今後の方向性)			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	・拡充・充実		受益者負担の視点で、事業の実施方法の検討する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現状維持			
	<input type="checkbox"/>	・見直し			
	<input type="checkbox"/>	・廃止			